

## 編集後記

今年は冬の寒さがまだしばらく続くかと思いきや、一気に陽気に春めいてまいりました。今年に入って月報は月一回ペースで出ることになり、今号はその3冊目、そして今年度最後の3月号となりました。

その最後を飾って下さいましたのは矢吹芳洋氏の「自治体における子どもの意見表明及び参加保障の仕組と課題—上越市子どもの権利に関する条例を手掛かりとして—」です。

上越市の条例を事例として取り上げ、1.この条例が保障する子どもの意見表明権や参加権の内容についての丁寧な説明、2.実現するためにどのように行われてきたのか、その仕組と運用を考察し、3.課題についても検討を加えた、包括的な内容になっています。特に、条例を実現していく上での難しさと問題点として、制度そのものよりも大人の、ひいては社会の子どもに対するまなざしや子ども観が強く関わっていることが指摘されており、改めて子どもの主体性とはなにかを問いかけられた思いです。さらに、社会における子どもの位置づけに関わって、そこでの大人はまずどのような社会を目指すべきなのだろうか…などなど、あれこれ未来を考えたり、それが子どもについて語るということなのだろう…と18歳の新生が入学してくる4月を目前にふと考えました。(HH)

## 執筆者紹介

矢吹 芳洋 経済学部教授

専修大学人文科学研究所月報

第263号(2013.3.28)

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

専修大学人文科学研究所

発行者 小山利彦